

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

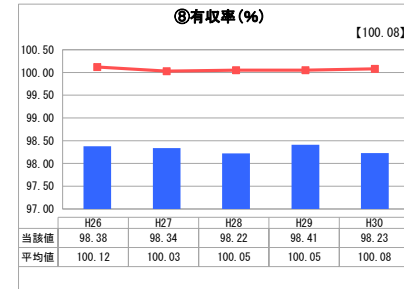
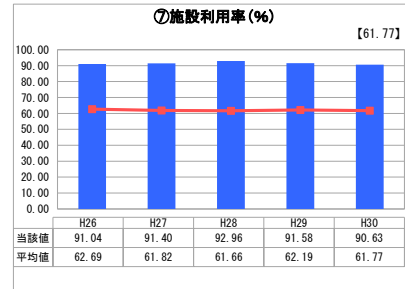
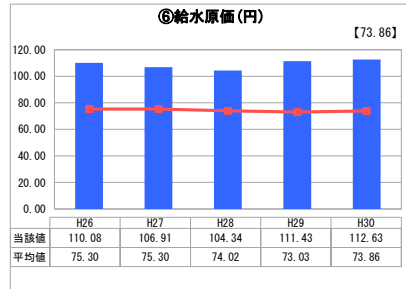
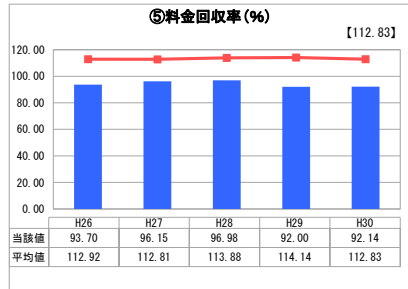
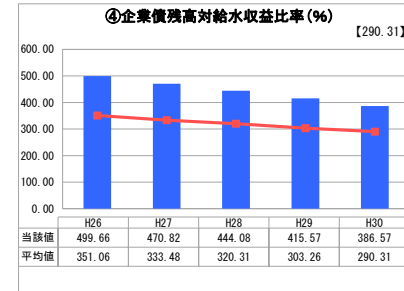
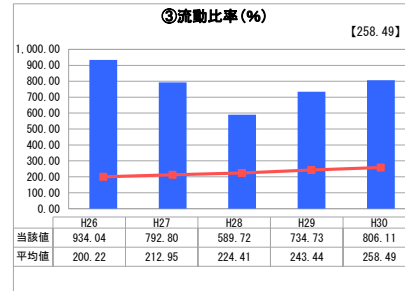
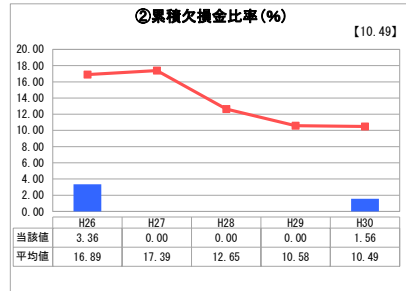
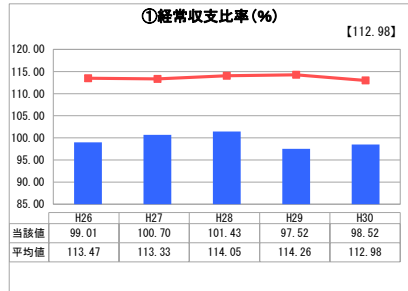
熊本県 上天草・宇城水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	84.94	33.82	0	

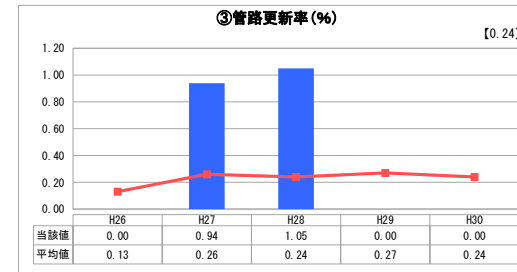
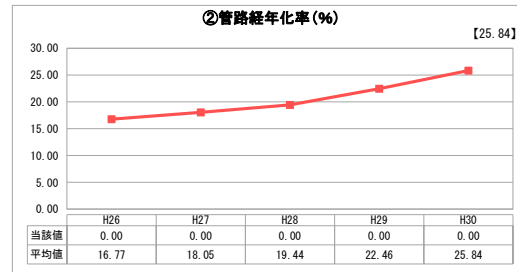
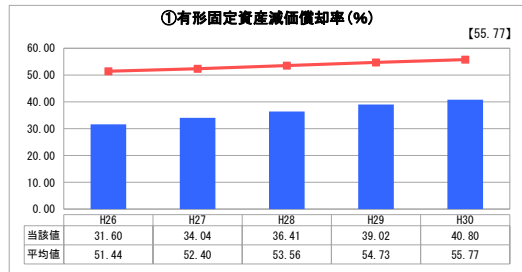
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
68,881	285.92	240.91

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度の経営状況としては、経常収支比率が98.52%と昨年に引き続き赤字経営となり、累積欠損比率も1.56%となった。  
 流動比率については、806.11%と100%以上であることから、短期的な支払いについては対応可能と考える。  
 料金回収率は92.14%と毎年ながら100%を下回っており、料金で費用を賄えず赤字となっているといえる。  
 給水原価については、類似団体の平均を大きく上回っているが、事業環境が異なることから、単純な数値の比較だけでは測れないと考える。  
 施設利用率については90.63%と平均を大きく上回っているが、熊本地震の影響があった平成28年度をピークに減少傾向にあるといえる。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始から15年経過したところであり、管路については法定耐用年数を超えるものはないが、機械・電気設備の一部は更新期を迎える。

## 全体総括

「経常収支比率」及び「料金回収率」の数値が示すように、3案予算による利益を生むことができず、資金確保が不十分であるといえる。  
 今後は、平成29年度に策定した「経営戦略」に基づき、料金改定を行う予定である。